

環境変化 影響知る重要地域

世界遺産登録当時の白神山地の評価を振り返ってみたい。

白神山地は、東アジア最大級のブナの原生林であり、その生態系に普遍的価値があるとされたことに加え、評価書の中では「地球の冷温帯の生態系形成に関する研究」や「生物学的群生のモニタリング」にとって非常に重要な地域であると述べられている。

つまり、本州の豪雪地帯に普遍的に存在した本来の自然の姿を知ることや、今後予想される地球環境の変化が原生的な自然にどのような影響を与えるかを知る上で、重要な地域だということだ。

白神山地は国内では自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域、県立自然公園に指定され、その上で世界自然遺産に登録されている。このように幾重にも保護されている地域ではあるが、その自然は決して不



中村剛之教授 寄稿

弘前大学白神自然環境研究センター長

＜なかむら・たけゆき 千葉県出身。弘前大学理学部、九州大学大学院で昆虫分類学を専攻（理学博士）。栃木県立博物館で学芸員として勤務した後、2010年2月から弘大で白神山地の研究に従事。現在、弘大白神自然環境研究センター、センター長（教授）＞

変のものではない。白神の山々が現在、急激な変化の中にあることを多くの人に知ってもらいたい。

登録以降のたった30年の間に、昆虫であればクロアゲハ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、キタキチヨウ、コカマキリなどが分布を北上して白神山地に侵入、定着を果たしている。地球温暖化が主な要因と思われるが、この他にも南方系の昆虫の発見が相次いでいるし、これとは逆に人知れず姿を消している昆虫も相当

数いると考えられる。

さらには松枯れやナラ枯れの発生、ニホンジカやイノシシ、さまざまな外来生物の定着が現実のものとなっており、生態系への影響が憂慮される。

今後もこうした変化が加速しながら進行すると考えると10年後、20年後に見る白神山地の姿は今と全く異なっている可能性がある。この変化をモニタリングすることによって、白神山地のブナの森は私たちと自然との関わり方について、重要なヒントを与えてくれるに違いない。

上記の画像は、当該ページに限って”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。